

福島県 教育新聞

発行人 福島県教職員組合
発行所

福島市上浜町10-38 電話024-522-6141

[定価一部 20円]

編集・責任者 角田 政志

e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp

http://www.f-t-u.or.jp

(この購読料は組合費に含まれています。)

2017
春闘

忙しい学校！私たちの働き方はこれでいいのか！

教職員の賃金・労働条件の 改善を要求しよう！

4月を迎えて、各校とも新たなメンバーで新学期がスタートしました。

2017年度は、県教組の世代交代に向けた第8次組織機構整備期間の最終年となります。3月の人事異動では多くの組合員の方々が退職され、新たに約200名の新規採用教職員が小中学校・特別支援学校に配置されました。

県教組は、子どもの未来づくりの活動はもとより教職員の労働条件の整備・改善に向けて取り組みを続けてきており、さらなる組織拡大を図り世代交代を進めていかなければなりません。

昨年度は、長時間労働・多忙化が社会問題化し、「教職員の週あたりの労働時間が60時間を超える割合が医師や製造業など他業種より高い」という調査結果も報道されました。地方公務員法改正により教職員に対しても人事評価制度による賃金反映が導入されることとなり、教育現場が大きく揺れた1年でした。

県教組は、3月28日に県教育委員会教育長に「教職員の多忙化解消」を柱とした「2017年度春闘要求書」を提出しました。この要求書に基づき、県教委交渉を4月27日に行います。昨年度末に各分会で取り組んでいただいた「教職員の多忙化を排除し、勤務・労働条件の改善を求める分会決議」を全分会の皆さんの切実な声として訴え、改善を要求していきます。

全分会から

4月27日(木)に行われる17春闘県教委交渉に向けて

「教職員の多忙化を排除し、
勤務・労働条件の改善を求める分会決議」を
採択し、教育現場の切実な願いを訴えよう！

※未提出の分会は、4月21日(金)までに各支部に届けてください。

17春闘勝利県教組総決起集会 及び 県教委交渉日程

11:00~12:15 総決起集会 (教育会館第一会議室)

4月27日(木) 13:30~15:00 県教委交渉 (県庁西庁舎9階)

15:00~15:30 総括集会後、解散

※ぜひ青年部の皆さんの積極的な参加をお願いします。

「2017春闘要求書」の主な内容は次の通りです。

1. 2017年度の賃金及び手当等について

- 教職員の給料水準の改善・賃金及び一時金の引き上げ
- 臨時採用教職員の賃金改善
- 栄養職員の医療職(2)給与表の改善要求
- 学校事務職員主任主査の昇任年齢の引き下げ・55才昇給停止に伴う「逆転現象」の改善措置・「共同・連携実施」は現場の意向を尊重した制度設計を行うこと

2. 臨時採用教職員の待遇及び勤務労働条件の改善について

- 複数市町村勤務の非常勤職員の年次休暇について単独市町村勤務職員との格差解消

3. 教職員の増員について

県教育予算を増額し、子ども及び教職員の安心安全を確保した教育の充実について

- 18年度配置の「副校長・主幹教諭」の制度設計を明らかにすること

4. 教職員人事評価制度の周知徹底と改善について

- 「勤務時間内評価」の徹底を評価者・被評価者に周知すること
- 自己目標の数値目標を強制しないように評価者に周知すること

5. 教職員の休暇制度の充実を図ること

6. 教職員の労働時間短縮及び多忙化・過重労働排除について

- 文科省通知「学校現場における業務の適正化に向けて」の実効性ある対応

7. 改正労働安全衛生法の趣旨の徹底について

8. 諸ハラスメントの根絶に向けた防止マニュアル作成及び管理職向け研修会の実施について

9. 子どもたちを災害や放射能から守るための対策を講じること

- 避難解除に伴い帰還する学校の運営に関し、負担過重にならないように配慮すること
- 帰還する学校の教職員の勤務労働条件及び生活基盤の安定が図られるよう地教委に指導すること
- 子どもたちを守るための放射線教育は、人権の側面を重視すること

10. 特別支援教育の理念を浸透させる手立てを講じること

- 2017年度県立高校入学選抜にあたり、障がいのある生徒への対応の具体事例を示すこと

11. 高齢者の雇用と年金の確実な接続を図るための制度設計について

- 新規再任用教職員の諸手続の簡素化を図ること

12. 「全国学力・学習状況調査」等の学力向上施策の見直しについて

13. 学校での集団フッ素洗口を行わないことについて

教職員共済といえばやっぱり!

月掛金 **900円** で **12** の保障(補償)

あんしん むすぶ
教職員共済

総合共済

まさかの賠償事故にも備えられます



教職員賠償責任補償
業務中に発生した賠償責任を
最高3,000万円まで補償



個人賠償責任補償
日常生活で発生した賠償責任を
最高3,000万円まで補償

しかも!
掛捨てでは
ありません

ホームページからも
資料請求いただけます

厚生労働省認可
教職員共済生活協同組合
福島県事業所
TEL:024-523-3011

教職員共済

検索

<http://www.kyousyokuin.or.jp/>

モバイルサイトはこちらから!

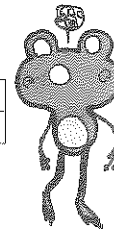
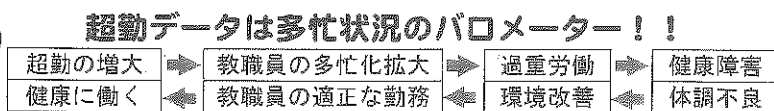
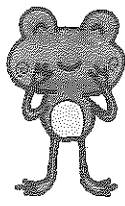


ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項説明書をご覧ください、制度内容をご確認ください。

今年こそは長時間労働にNO!

電通の過労死問題以降、長時間労働が社会問題になっています。教職員も世界一労働時間が長いのが実態で、体調を崩し病休をとる人も多くなっており、現職で死亡するケースも出ています。今年こそは、分会で超勤を減らす取り組みをしてみましょう。超勤を減らすには、まず自分の超勤に関する実態を知ることから始めてみませんか?実態を把握したら、是非、職場会を開いて超勤になってしまう原因を話し合い、解決策を考えてみましょう。

正確な超勤時間の把握が自分を守る第一歩!



自分の命・くらしを守るためにも...

① 出退勤時刻を記録し、正確な超勤時間を把握する。

出退勤時刻の記録が大変な方へ

出退勤
いのちを守る
ワンクリック



② 超勤データを活用し、労働環境を改善する。

- 過労による公務災害になったときの証拠になる。
- 多忙な働き方を認識し、超勤を削減する意欲づけになる。
- 「だらだら超勤」を防ぐきっかけになる。

このパソコンソフトを活用しよう!

超勤時間を管理できるソフト「元気にカエルくん」の活用

- 出退勤時刻の入力が簡単!
- 超勤データが自動記録・簡単整理
県教組のwebページからダウンロード

<http://www.f-t-u.or.jp>

「超勤時間管理ソフト」をクリック!

県教組職場資料「明日のために労安編②」P8より



組合活動

組合の目的は三つあると思ふ。

一つ目は、雇用の安定、賃金・労働条件の改善・向上をめざす。国や市・県への要求行動と交渉が中心となる。

二つ目は、組織力を生かして職場の問題の解決、公正・公平を達成する。そのためには組織のメンバーの心身の健康が必要であり、みんなが支えあう。問題や悩みを話す場が必要であり、分会の職場会がその役割を果たす。ピアカウンセリングを行って、「仲間」に話を聞いてもらって気持ちに楽になった。「学年や学部(特別支援学校)の壁を越えて話をする機会をもてた。」「課題が明確になった。」などの声が出ている。他方、校長の上から目線の管理、パワハラで職場が暗くされ、病に追い込まれる人も少なくない。管理職には、みんなの意見を聞いて、働きやすい職場をつくり、仕事をスムーズにできるように望みたい。

三つ目は、地域社会の問題を市民と共有し、よりよい改

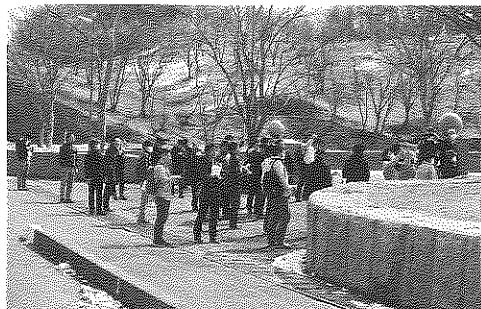
善を図る。多忙な職場では問題自体がわからない、わかっても対応できないこともある。地域の労働者・市民・保護者の方々と共に行動することで見えなかったことが見え、気づかされることも少なくない。進路学習・職場体験学習の場となっている保育所、幼稚園、介護施設、図書館等を見て、子どもたちは夢と希望を持って進んでいく。しかし、現実はどうか。同じ職場の仲間である学校司書、調理員、用務員の多くは不安定な雇用であり、栄養技師も非常勤が増やされている。あまりに収入が少なく、ダブルワークで生活費を補填している人もいる。非正規雇用が増大する状況を変えることなくして、子どもたちの夢の実現はない。

三月十八日、「二〇一七原発のない福島を」県民大集会」が開かれ、県内外から約六千人が参加した。避難指示の解除や住宅支援、賠償の打ち切りが進められる中で、住民切り捨てを許さず、原発ゼロに向かって力を合わせていきたい。

「人のために生きる、助け合う」という信念を忘れないようにしたい。

全国各地から37人参加！ 真剣なまなざし！

県教組原発災害被災地フィールドワーク



飯館中学校の校門前

3月19日(日)、昨年度3回目となる県教組主催による原発災害被災地フィールドワークが実施されました。前日に郡山市で開催された「2017原発のない福島を！県民大集会」に参加し、引き続きフィールドワークに参加する方が多数おり、案内人を含め計39人の参加で実施しました。今回は、福島→川俣→飯館→南相馬→浪江→富岡というコースで、案内人である柴口正武さん(双葉支部長)の説明に耳を傾けながら、バスの中から原発事故によって変わってしまった各市町村の様子を視察しました。説明では、事前に用意して

いただいた資料をもとに原発事故直後から今までの被災地の状況の変遷、被災者の様子や心情について丁寧にお話をいただきました。また、飯館中、浪江駅をバスから降りて実際に歩いて視察しました。

フィールドワークが実施された数日後、数名の方からお礼のお便りをいただきました。そのお便りの中で、「浪江駅周辺の町の様子は、帰還する人がいるのだろうかと思うほど、震災後の姿をそのままとどめ、無人の町と化していたのに胸が痛みました。」「フィールドワークで学習したことを仲間にも伝え、福島の心を忘れずに『原発再稼働反対！全原発廃炉！』に向けて北九州の地から頑張っていきたいと思います。」などの感想が綴られていました。



浪江駅前

私たちは、原発災害の被災地の県民として、また教職員として、甚大な被害をもたらした住民の生き方を変えた原発事故の様々な問題について、身近な人だけでなく全国に発信し続けていかなければなりません。

福島県教職員組合 第67次教育研究分科会推進委員会のお知らせ

- 1. 日時 2017年4月22日(土) 10:30~16:00
- 2. 場所 郡山市立永盛小学校 (郡山市安積町日出山新鍬14 TEL 024-945-1708)
- 3. 日程

10:00	10:30	11:00	12:10	12:50	14:20	14:30	16:00
受付	開会行事	講演会	昼食	教科別分科会	移動	課題別分科会	

*昼食時に、DVD「あなたの職場では、ルールが守られていますか？」を全体会場で上映します。

- 4. 講演会 演題：「新学習指導要領(改定案)の問題点について ~私たちはどう働くか~」
講師：西原 宣明さん(日教組教文局長)

安心して暮らすために

今年度も

「東京電力福島第二原子力発電所の

即時廃炉を求める署名」継続中です！

更に10,000筆のご協力よろしくお願いたします！

